

令和元年 第 8 回
富山県教育委員会会議録

I 開会及び閉会の日時

令和元年7月12日(金)

開会午後1時00分、閉会午後1時50分

II 場所

教育委員会室

III 出席委員

1番 鳥海 清司

2番 山崎 弘一

4番 藤重 佳代子

5番 村上 美也子

教育長 伍嶋 二美男

IV 説明出席者

教育次長 布野 浩久

教育次長 坪池 宏

教育企画課長 広沢 久也

生涯学習・文化財室長 菊池 政則

教職員課長 坂林 根則

県立学校課長 本江 孝一

小中学校課長 近藤 智久

保健体育課長 東瀬 義人

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時00分、教育長が開会を宣する。

1 議決事項

議案第23号 令和2年度富山県立学校募集定員等決定の件
県立学校課長から説明し、原案のとおり可決した。

2 報告事項

(1) 令和元年度中学校第3学年生徒及び県立高等学校全日制課程第3学年生徒の進路希望調査結果
について
県立学校課長から説明した。

3 その他

今後の教育委員会等の日程について
教育企画課主幹から説明した。

4 議決事項・報告事項

午後2時34分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、
議案第24号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。
議案第24号 令和2年度富山県立高等学校及び富山県立特別支援学校高等部・幼稚部の入学者選抜日程
の件

5 議事

○議決事項について

議案第23号関係

[藤重委員]

・外国籍の中卒予定者は何名くらいか。

[県立学校課長]

・把握していない。この人数は今年の5月1日の中学校3年生の在籍者の数になっている。

〔村上委員〕

- ・その数を知りたいと思う。その方達がどの程度高校に進学されていくのかという事がその人達の人生に大きく関わっており、その後の暮らし方、貧困といったものに直結することだと思うので、もしわかれば教えていただきたい。

〔県立学校課長〕

- ・状況について確認し、また説明させていただきたい。

〔山崎委員〕

- ・中学卒業生数が減る中、募集定員もどんどん減ってきているが、総合学科については、普通科、職業科の中間に位置するような、第3の学科と言われる学科であり、選択の幅を広げて3年間自分の進路を考えさせようという学科であり、最低でも1学年で4、5学級ないとなかなか総合学科としての効果が出せない学科だと思う。そうしたところ、今回、小杉高校では総合学科が3学級から4学級になったということは、そういう意味では良かったと思うが、今後それが保たれるのかどうか疑問である。また、一覧表にある普通科については、普通科としての機能・役割を果たすためには一定の学級数が必要だと思う。そうしてみた時に2学級の普通科が1校あり、3学級の普通科が6校、4学級が8校であるが、普通科については、やはり少なくとも1学年3学級なければいけないのではないかと思う。そこで、今後のことであるが、2学級以下にならないように何か配慮はできるのか。

〔県立学校課長〕

- ・普通科と職業科が併設されているような学校も含めた中での、その学校における普通科の学級数が2学級しかないのは滑川高校1校ということだが、今後の見通しについては毎年5月1日の中学3年生の卒業予定者数を基に次の年の募集定員を設定していくことになり、今後、中学校卒業予定者数が大幅に減っていく事が見込まれている。それは今回、高校再編等を実施するにあたり、平成31年から令和8年を通して実施したのだが、その際のシミュレーションにおいても相当減ってくる。そうしたことから今後の見込みについては、いま山崎委員がおっしゃられた点については非常に危惧されるような状況であり、そこを今後どのようにしていくかは、その年その年判断していかなくてはいけないだろうと思っている。

〔山崎委員〕

- ・富山県は他県と違って高校の形が総合制高校とあって、普通科も職業科も併設された学校が歴史的に昔からたくさんあったのだが、近年整備されてなくなった学校もあるが、いまだに総合制の形をとっている学校がたくさんあるということで、普通科について言う時はこのことを十分考慮しなければならないことである。

〔教育長〕

- ・今、県立学校課長から説明があったが、今後の生徒数の減少具合や生徒の希望、また、山崎委員からお話があったが、富山県の特徴といった学科構成の部分、それと今国の方でも普通科のあり方について、いかに生徒の専門性をより引き出すかなど、いろんな検討がされている。また高校のそれぞれのあり方自身も、地域との関わりをどう強くしていくかといった論点から議論もされているので、その辺りの議論を注視しながら、これから富山県においてはどうしていくべきか、いろいろ考えていくべき話だろうと思う。将来的にこれからどうなるかわからないが、1つ言えるのは毎年それぞれの生徒の状況や意向を踏まえて、学科のそれぞれの編成というか、募集によって切り替えていくということで、毎年考慮しなくてはいけないものについては今回の募集定員で配慮していき、それ以外にも大きな国の流れがあった場合は、それを踏まえて検討していくことになるだろう。

○報告事項について

報告事項（1）関係

〔山崎委員〕

- ・中学生3年生の進路希望者の割合は前年同期と比べ0.2ポイント上昇と書いてあり、高校生3年生の進学希望者の割合については、前年同期と比べて0.6ポイント低下と書いてある。低下というのは事実だと思うが、統計的に全体の傾向として低下していると言えるのか。

〔県立学校課長〕

- ・例えば中学校3年生の進路希望調査ということで6ページの表の方をご覧ください。進学希望率については、今年は98.9%だが過去5年を見ると99.1%が一番高く、昨年が98.7%で一番低い状況であり、これは年による差の範囲だろうと思う。就職希望率についても昨年在り0.3%で少し高かったが、やはりこれも0.1%から0.3%の幅の中ということで、基本的には平年並みの数字だろうと思う。高等学校の進学希望率については、8ページになるが、本年は昨年と比べて0.6ポイント減少しているが、過去5年で見ると、平成27年が65.7%であり、その次の年が68.7%で高くこれも年による動きの範囲内だろうと思う。就職希望率については、若干平成27年度が20%で少し高かったが、やはりほぼ平年並みの範囲だと言えるだろう。

〔山崎委員〕

- ・進学先別希望状況については、全日制の県立高校の希望者の割合が1.5ポイント近く減っており、明らかに減っているように見える。また、前年との比較では、やや定時制や私立にも流れているような感じが受けられる。一方で、特別支援学校がこれは実数部分で見ても、すごく減ってきているように思うのだが、特にこの特別支援についてはスペシャルな教育を希望する人と、最近インクルーシブといわれているが、特別支援学校に行かない子どもが増えてきたことの表れなのか。

〔県立学校課長〕

- ・まず全日制課程の県立高校については、ご指摘の通り、平成29年は88.4%で、過去5年をみるとそこがピークで2年連続下がっている。この2年連続下がったことをもって、今後もそうかと言われると、まだわからないが、この3年では減少傾向にあると言えるのではないかと思う。ここが減少するという事は、1つはご指摘あったように私学の高校への希望者及び定時制、これも1.7%、2.0%、2.3%と増加しているので、こうした影響もあるのではないかと思う。それは併せて通信制課程にも表れているのではないかと思う。また一方、特別支援学校については、0.6%、0.8%、0.5%ということでこの中では一番少ない数字となっているが、これは今年の特別な傾向となるかどうかは、そこまでは限定できないだろう。

〔島海委員〕

- ・大学のセンター試験の受検者数、富山県内の受検者数が昨年も200弱増えていて、今年も増える見込みとなっている。その中で県立高等学校全日制的進学希望者の数がどんどん減っていった現状があるので、県内全体で受ける数が増えているのに、県内が減っているということは私学が増えているのか、もしくは浪人生が増えているのかということらどと思うのだが、浪人生だけでそんなに増えるだろうか。また、今の中学卒業生の流れとして私学にも以前に比べると大学に進学したい学生がだいぶ流れているのかということが分析できるのかどうなのか。やはり県立学校で進学者をできるだけ確保したいというような考え方でいけば、その辺も考える数字の材料になるのではないかと思うので、実際の受検生が増えているのにも関わらず県立学校が減っている原因等も分析していただければと思う。

〔県立学校課長〕

- ・高等学校の調査については、県立高校の全日制的課程のみとなっているので、ご指摘の通り私立は入っていない。それで大学等への進学希望率が減っているが、男女の割合で言うと、男子は少し減っているが、女子は少し増えている。このことから就職希望、職業科の生徒たちの希望やそういうものも多少入るのではないかと思うが、もちろん現時点ではこの数字だけでお話は出来ないと思うので、ご指示の通り他のデータと併せてみていきたいと思う。

午後1時50分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。